

3. 2019 および 2020 年度の大学医学部入試結果の解析

2019 年の入試では 2018 年に行われた不当な差別が排除されたとの報道が相次いだ。しかし 2019 年の結果のみで差別が解消されたと結論するのは早計である。JAMP はこの結果が一過性の現象か否かを検証する必要があると判断し、2016 年度（平成 28）～2020 年度（令和 2）の大学医学部の入試結果を表 3 にまとめた。

表 3. 2016 年度～2020 年度の大学医学部の入学試験結果

| | 男性 合格者 | 女性 合格者 | 男女計 合格率 | 男性 合格率 | 女性 合格率 | 合格率の 男女比 |
|-------------------------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|-------------|
| 2016 年度 (平成 28) | 5,868 名 | 2,990 名 | 6.50 % | 6.85 % | 5.91 % | 0.86 |
| 2018 年度 (平成 30) | 5,874 名 | 3,128 名 | 6.28 % | 6.62 % | 5.73 % | 0.87 |
| 2019 年度 (平成 31/令和 1) | 5,659 名 | 3,348 名 | 6.61 % | 6.79 % | 6.33 % | 0.93 |
| 2020 年度 (令和 2) | 5,647 名 | 3,257 名 | 6.81 % | 7.14 % | 6.31 % | 0.88 |

さらに、種部理事による 2016 年度の全大学入試における学部別大学合格率（合格者／受験者）および合格率の男女比（女性の合格率／男性の合格率）（図 2、図 3）の解析と同様の方法で、2019 年度と 2020 年度を解析した。

2019 年度も学部別大学合格率は医学部のみが男性 6.79%、女性 6.33%と男性が上回り、差は 0.46 ポイントであった（図 4）。学部別合格率の男女比は前年度よりは改善して 0.93 であった（図 5）。

2020 年度の学部別大学合格率も従来と同様で、医学部のみが男性 7.14%、女性 6.31%と男性が上回り、差は 0.83 ポイントと 2019 年度より開いてしまった（図 6）。合格率の男女比も 2019 年度の 0.93 を下回り 0.88 であった（図 7）。医学以外の他学部では 1.0 を上回っており、医学部のみで相変わらず女性の合格率が顕著に低いことを示している。

この問題の幕引きが受験料返還して和解をすることではないと考える。JAMP は 2021 年以降も大学医学部入学試験結果に対して独自の解析を継続し、Gender Gap の改善に貢献していきたい。

図2. 2016年度（平成28年）学部別大学合格率

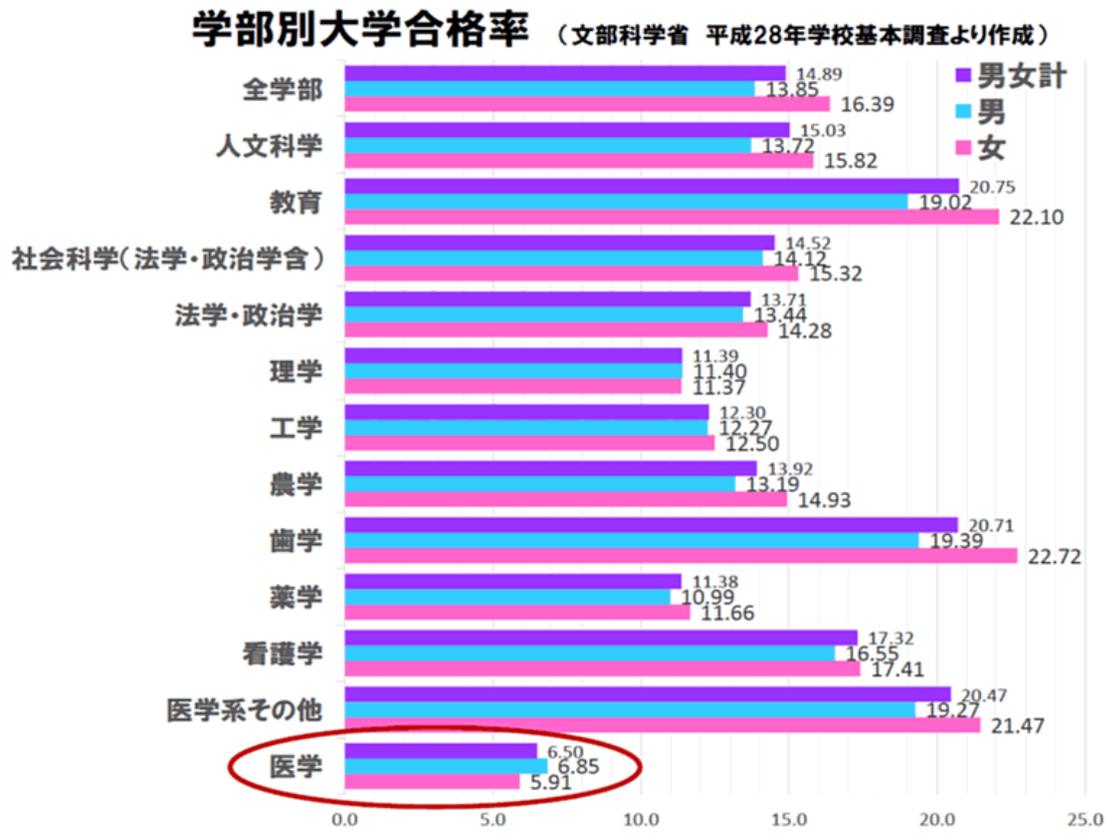


図3. 2016年度（平成28年）大学入試学部別合格率の男女比



図4. 2019年度（平成31年度）学部別大学合格率

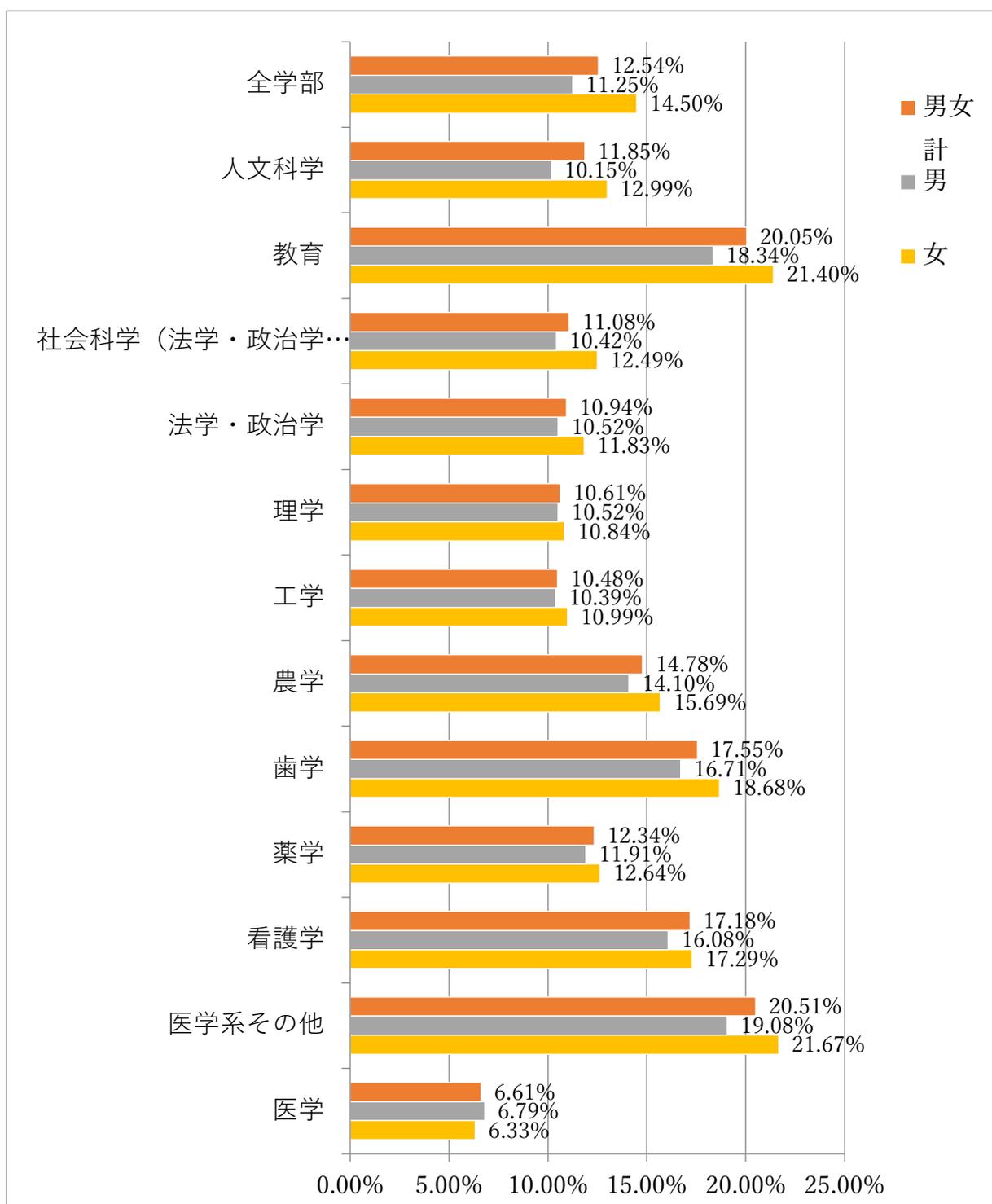


図5. 2019年度（平成31年度）合格率の男女比

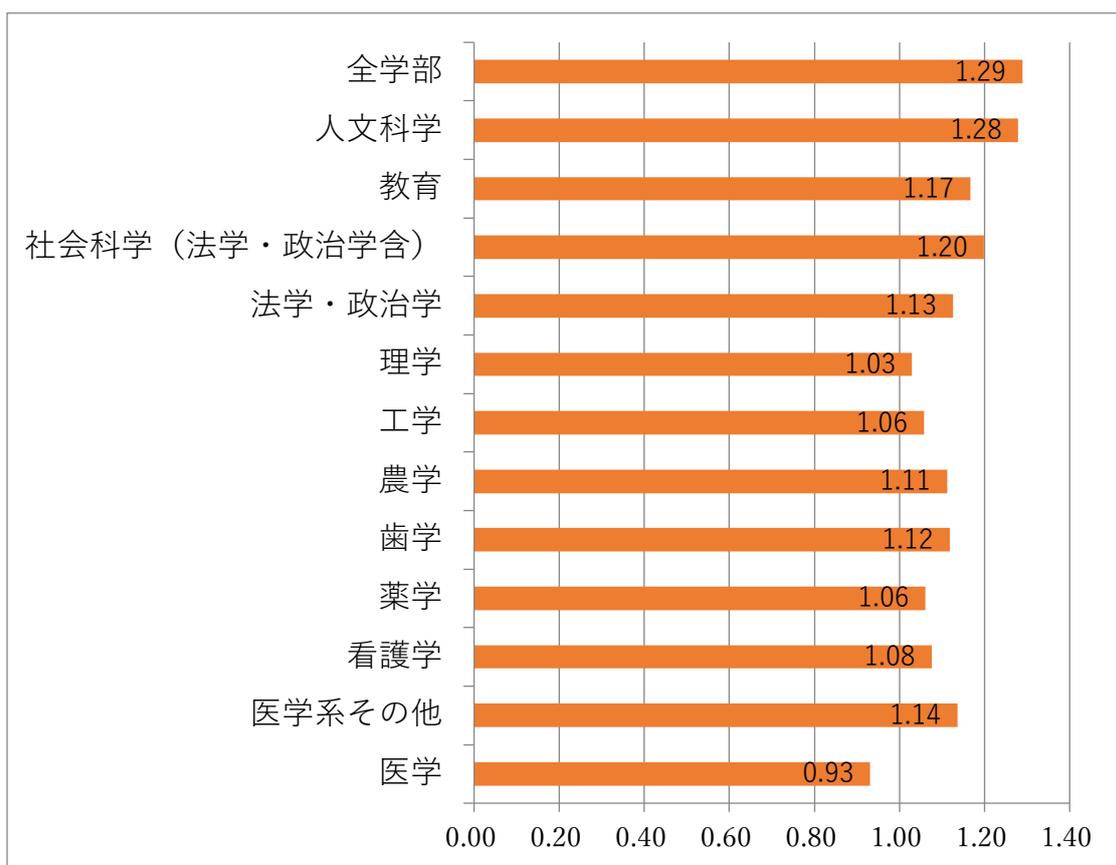


図6. 2020年度（令和2年度）学部別大学合格率

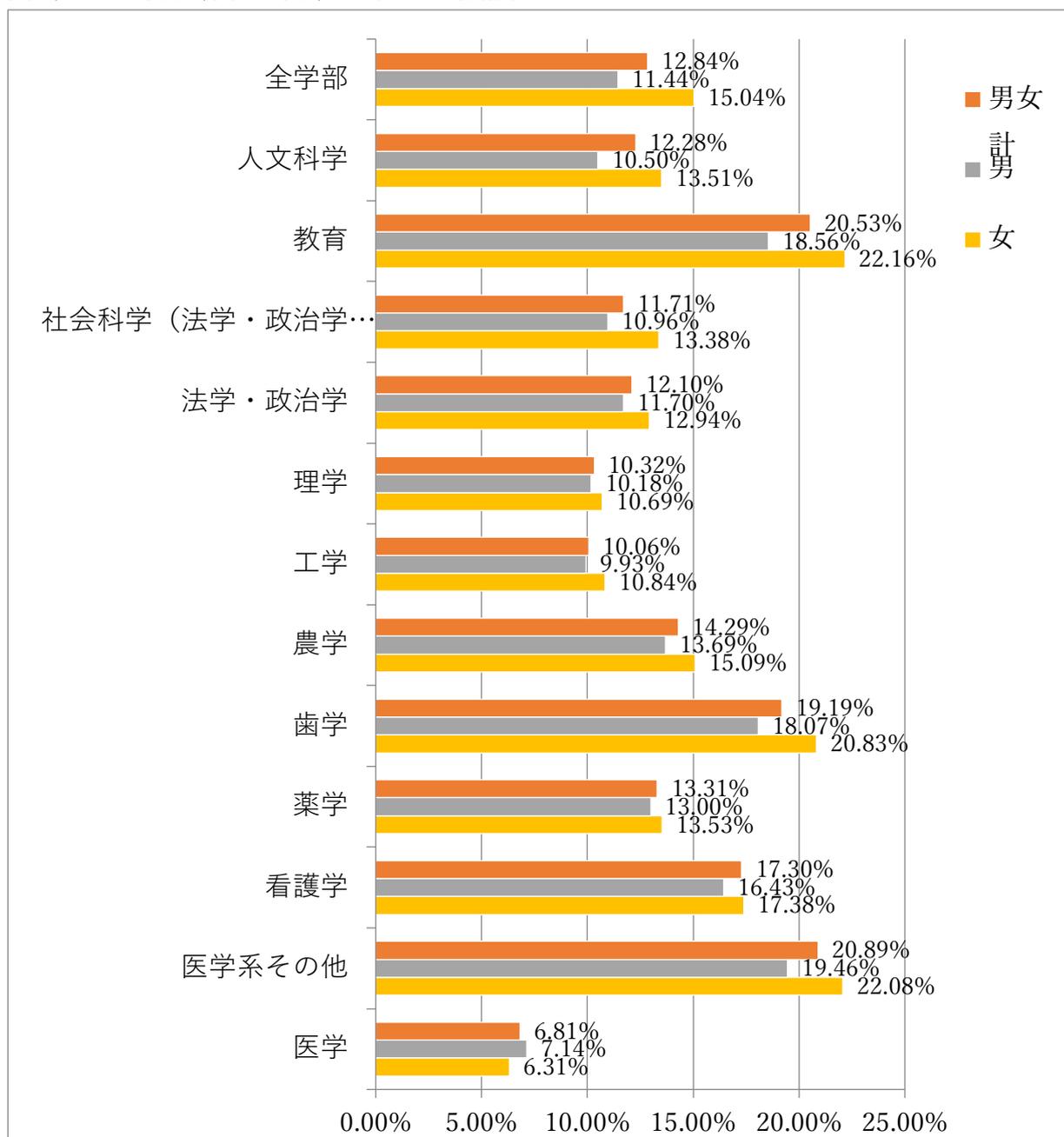


図7. 2020年度（令和2年度）合格率の男女比

